

奈良県道路整備委員会（第4回）議事録

日時：平成30年7月24日（火）

14時00分～15時30分

場所：奈良県文化会館 第1会議室

■委員からの主な意見

【服部委員】

- この5年間で地震や洪水、豪雨などの災害が多数発生。構造物が災害に対しても十分機能を果たすよう取り組んでいただきたい。
- 奈良県は縦に長い形状で、北部は都市部で、南部は迂回路がないなどアクセス性が悪い地域。人口や交通量が多い北部地域、災害が起こる可能性がある南部地域、それぞれの特性に応じた道路整備を進めてほしい。
- 老朽化対策は、大変重要な視点。ボクシングで言えば、突発的な災害は右ストレート、日々の繰り返し荷重は、ジャブのようなもので、どんどん道路は老朽化していく。災害に対しては、安全・安心な技術で道路整備を効率よく進めていってほしい。また、中長期的に見た場合の施設の老朽化に対しても、予防することで管理コストが下がることがわかっているため、前向きに進めてもらいたい。

【井上委員】

- 奈良県は市町村とまちづくり協定を結ぶという新たな形をとっており、市町村と県が連携して、お互いのプロジェクトの促進に繋げていくことは、非常に良い取り組みだと思う。
- 奈良県では、6市町村が立地適正化計画を策定しているが、どの自治体も自分の自治体の中に、いかに人が住んでもらえるかを考えて立地適正化計画を策定するため、全国的にみても、開発するエリアは拡大傾向にある。一方で、人口は減少傾向にあり、都市自体が縮小していくことは見えているところであるため、工業の誘致など、外部からの資本を入れていくことは、生き延びていくには必要なことであるが、一方で如何に適正に縮小していくかについても考えていく必要がある。
- 道路は、それぞれの都市をつなぐ主要なライン。各地域の計画づくりが適正に進んでいくよう全体をコントロールするのは県の役割。各自治体の計画づくりを進めていくことや、あるいは抑制していくための一つのツールとして、道路整備基本計画を進めていただくと良いと思う。
- 高齢者の交通事故等が増えていることが社会問題となっているが、奈良県の場合、南部の方は、車がないと生活できない状況。高齢者も含め誰が運転しても事故が起きにくい安全な道路整備や、車が無くて生活できるための周辺サポート、車の自動運転のように技術が進んでいるところであるので、年をとっても安全に運転できる車や、

そういった技術をいかに許可していくのか、その点等も含めて高齢化対策を、道路の面から議論をしても良いのではと感じた。

【植田委員】

- これだけ災害が多いと、やはり人の命に関わるので、まずは防災の観点で、国道 168 号や 169 号、いわゆるアンカールートの迂回路として、国道 168 号と 169 号を結ぶ道路の整備が必要と思う。
- 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、特に奈良市内の点字ブロック等について、きちんともう一度、点検していただく必要がある。また、高齢化社会の中、段差を無くしていくことも今後の取り組みとして必要。
- 無電柱化の推進について、奈良県の場合、全国的に見て整備が遅れている。先進的な取り組みをされている府県があると思うので、うまくその技術を利用することも一つの方法だと思う。

【萬谷代理委員】

- 新たな道路を作ると、信号機などの交通安全施設が必要となるが、この 5 年間で信号機の設置数は、要望に対してかなり少なく、必要性や緊急性など優先順位を決めて設置している。このような事情を踏まえていただき、災害にも強く、かつ信号機もいらないラウンドアバウト（環状交差点）や、立体型の交差点を有した道路なども含めた検討をお願いします。

【原委員】

- 歩道拡幅において、路肩等を活用した結果、ガードレールの支柱や植栽帯の跡が歩道の中に残っている箇所があるなど、道路利用者に不親切で危ないといった印象を持っている。整備段階での配慮事項になると思うが、「使い易さの追求」の項目に、生活者目線の現場での配慮を追加していただければと思う。

【塚口委員長】

- 道路というのは、県民が安全で快適な生活を送れるようにするためのものであり、「生活利便に資する道路整備」から「まちづくりに資する道路整備」への見出し変更は、まちづくりのための道路づくりということが伝わってわかりやすい。
- 「目的志向の道路整備の推進」に 4 つの視点が書かれており、(1)～(4)まで番号が付けられている。この 4 つの目的志向について、優先順位があるのか。(1)～(4)の番号表記が優先順とも取れるため、優先順位がなければ、番号を付けず同列にしたほうがよい。

【事務局】

「目的志向の道路整備の推進」として 4 つの目的があるが、特に優先順位を決めているわけではない。数字の意味合いがあるのかと誤解を招いてしまうかもしれないので、記載の方法については検討させていただく。

【服部委員】

- 新しいメディアや通信媒体なども活用しながら、住民の情報を拾い上げて施策に微調整を加えていく取り組みも必要ではないかと思っている。

【塚口委員長】

- 立地適正化計画について、コンパクト・プラス・ネットワークということが国土交通省から提唱されているが、今回の道路計画で何か配慮されているのか、あるいは、別の問題と考えているのか。

(事務局)

- まちづくりや都市計画を進めていく中で市町村は「立地適正化計画」を考えておられる。何のための道路かを考えた場合、特にまちづくり関係や結節点と結節点を結ぶ幹線道路のような発想もあるので、密接に関係してくるものと考えている。

【原委員】

- 重要物流道路については、今まさに国土交通省の中で、議論や検討がされているところ。この制度は、奈良県の基本計画の改定と併走しながら検討しているため、常に注視しながら計画していただければと思う。

【本日の議論のまとめ（委員長まとめ）】

- 災害時に備えた効果的な道路整備と中長期的な対策について、専門的な視点から意見をいただいた。奈良県の特徴として、北部と南部で大きくインフラ整備に差がある。交通量の面で考えれば、北部を優先せざるを得ないと思うが、南部においても、国道168号や169号、さらには幹線道路に準じたアクセス道路について、災害対策も含めた整備を進めてほしい。
- 奈良県の道路整備は、幹線道路が中心であるが、地区レベルでの交通安全も注視しなければいけない。また、人口は減少傾向にあるため、将来の都市の縮小を考慮したうえで、うまく縮小していくことも考える必要がある。
- 国道168号、169号のアンカールートからの迂回路の設定や、無電柱化の推進については、新しい工夫が必要であり先進的事例をうまく利用していただきたい。
- 交通管理者の立場からは、要望数の信号機を設置することがなかなか難しいため、信号機が不要となるラウンドアバウトの提案があったが、ラウンドアバウトを設置するには交通量が多すぎず、かつある程度設置する面積が必要となるため、適材適所で適用するような記載としていただければと思う。
- 奈良県の道路整備に対して、第一印象で、悪い印象を持たれないよう配慮する必要がある。細かなところまで配慮した計画を進めた方が県民と合意形成が図りやすい。
- 「目的志向の道路整備の推進」の4つの視点について、番号表記を取って並列することで、番号表記が優先順位と誤解されないようにしたほうがよい。
- 本日の資料について、各委員から否定的な発言は無く、前向きな意見があったことか

ら、本日の資料をベースにブラッシュアップする方向でまとめていただきたい。